

野

居

鷹

三

3038  
1



特 へ13  
3038  
15  
特 へ13  
3038  
1

深川... あり... 下... 中...  
あやの... せ...  
さ...  
あ...  
あ...  
あ...

本定



自序



丙寅仲冬。飄々雪裏。慕駢子背  
上之興。躡敞蹤于郊外。酌漫醪  
于野店。忽有放鷹之徒。兩之簡。  
側不榻。共與酌稍酣。往々論古  
今英雄。次及百合若之事跡。嘗

有百合著者。往古為朝廷之大  
臣也。而今客之所說者。其姓名  
雖相似。事實殆異矣。近來有怪  
僻之冊子。好事之戲編焉。僅援  
本邦史傳。多據清人小說。求兒  
女之感慨者也。蓋鷹徒之誇亦

有似之矣。予以其所憶。不敢論  
訛謬。採毫千煇。換遲日之榮  
話者。效彼東坡。宜妄言者也。

文化丁卯年正月

雙馬主人





まはるれ乃  
 高きうら  
 を解まつく  
 心をれせ  
 けりか  
 大にむ多れ  
 をく尋ゆい  
 たるおまき  
 乃こまれち  
 おのうま  
 小にれ引  
 じしれき  
 鳴れり



何れれ  
 思ふ  
 つき  
 中い  
 かり  
 君  
 たい  
 かい  
 より  
 ち  
 かり



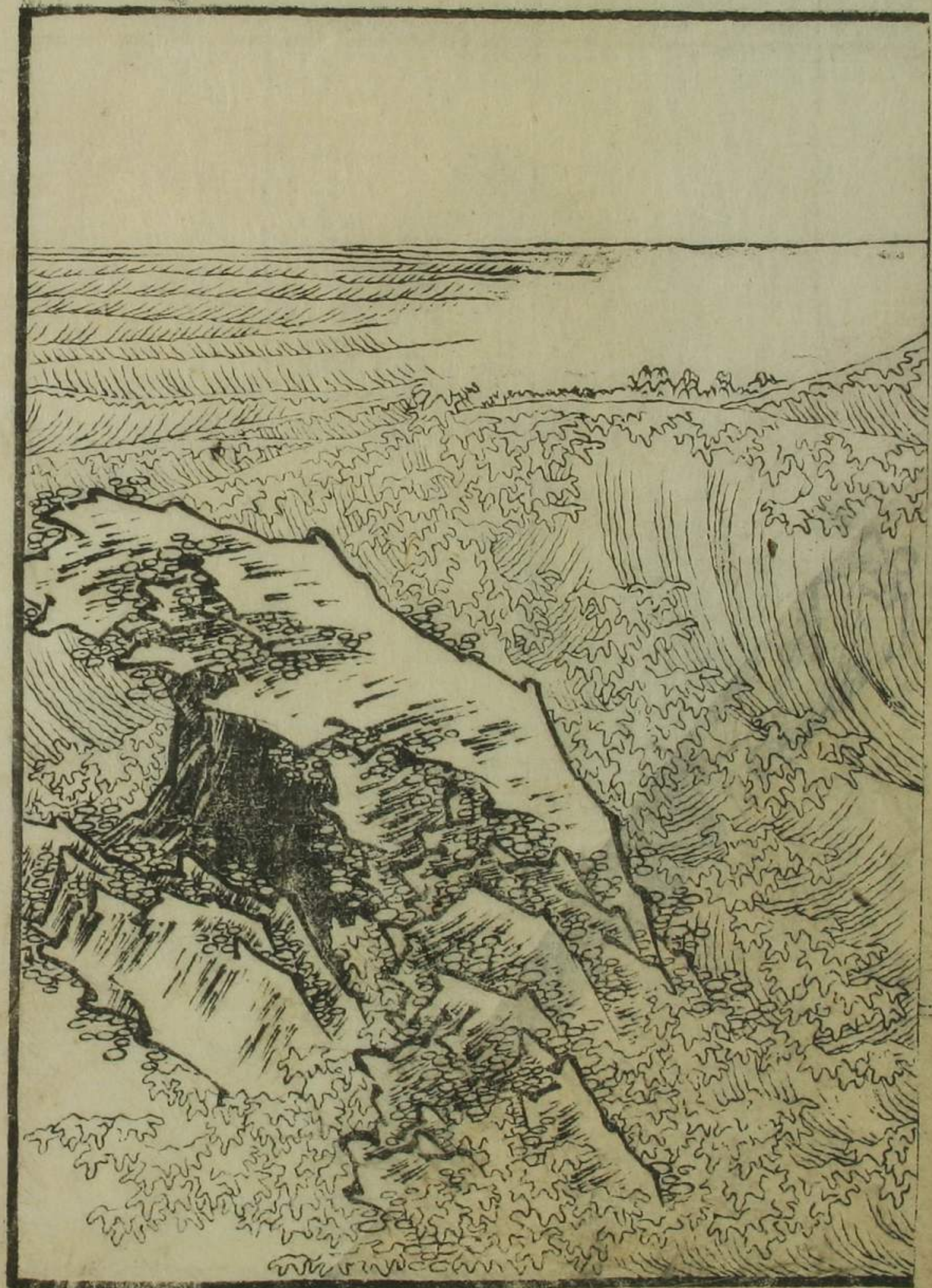
A black and white woodblock illustration of a flowering plant, likely a lily. The drawing shows several large, trumpet-shaped flowers with long, pointed petals and long, narrow leaves. A vertical column of handwritten Japanese text in kuzushiji script is overlaid on the right side of the illustration. The text is arranged in approximately 10 vertical columns. The entire scene is enclosed in a rectangular border.











由利稚野居鷹惣目錄

○ 發端

○ 由利稚撫子方來由

○ 別府二郎不圖密計醉奇酒

○ 金花猫謝主恩誰起繩

○ 差羽大郎陷姦計放旧府



○ 只先逢良醫巨則冠者我撫子君

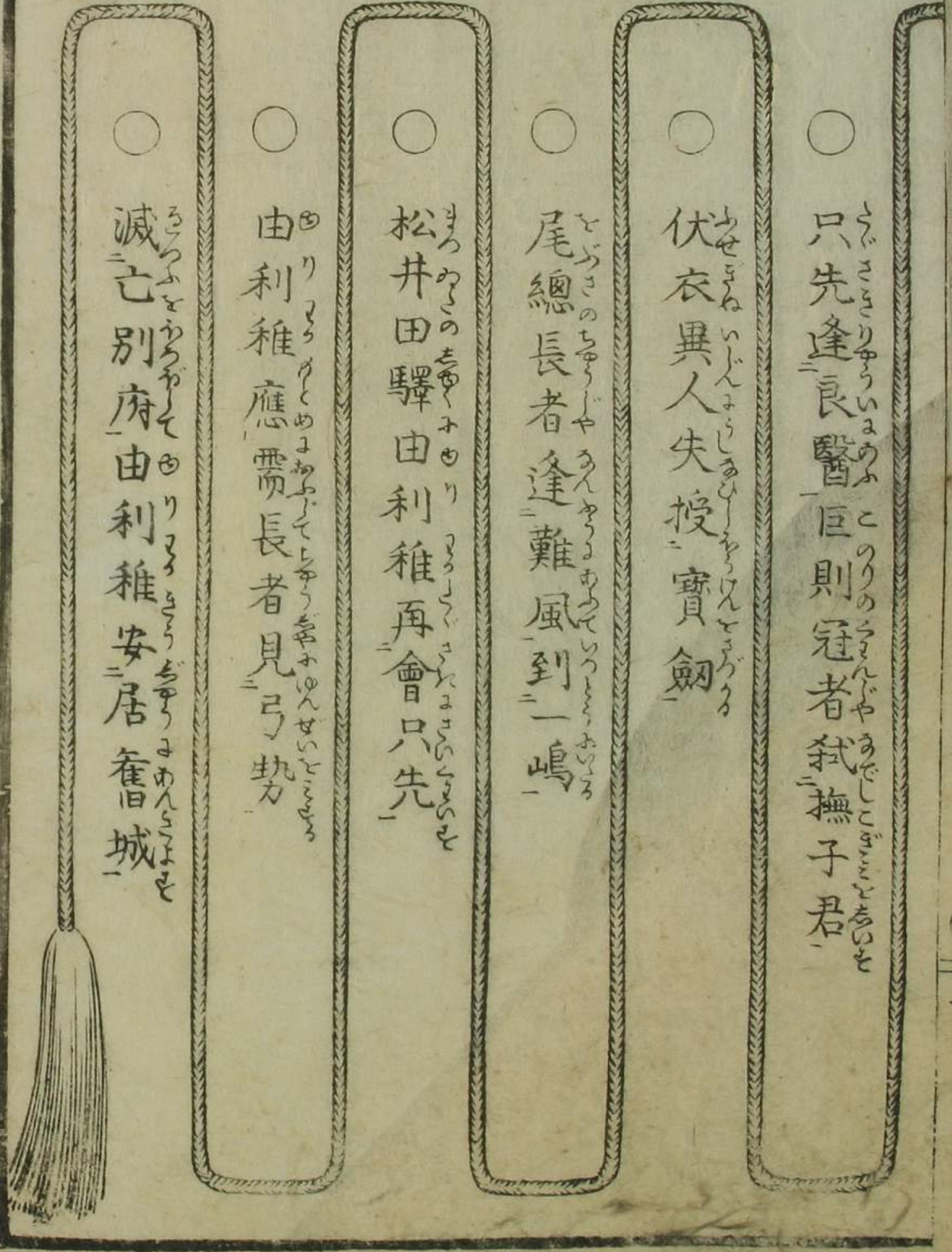
○ 伏衣異人失授寶劍

○ 尾總長者逢難風到一鳴

○ 松井田驛由利稚再會只先

○ 由利稚應需長者見弓勢

○ 滅亡別府由利稚安居舊城



由利稚野居鷹卷之一

万亭雙馮戲編

發端

人王八十代順德院と稱し後鳥羽院第二の親王  
小在し。正治二年四月東宮よ五拾ひ美元元年十月御兄  
君土御門院の讓を受方衆の位を譲あへども宝篋中  
十四歳よ渡らせあへ。政へとく後鳥羽上皇院中の御  
みふ。あつろよ上皇北条征伐のゆゑまありりも急小  
とどく。却る失派生びんふをわかんらりぬひ。表よる詩并

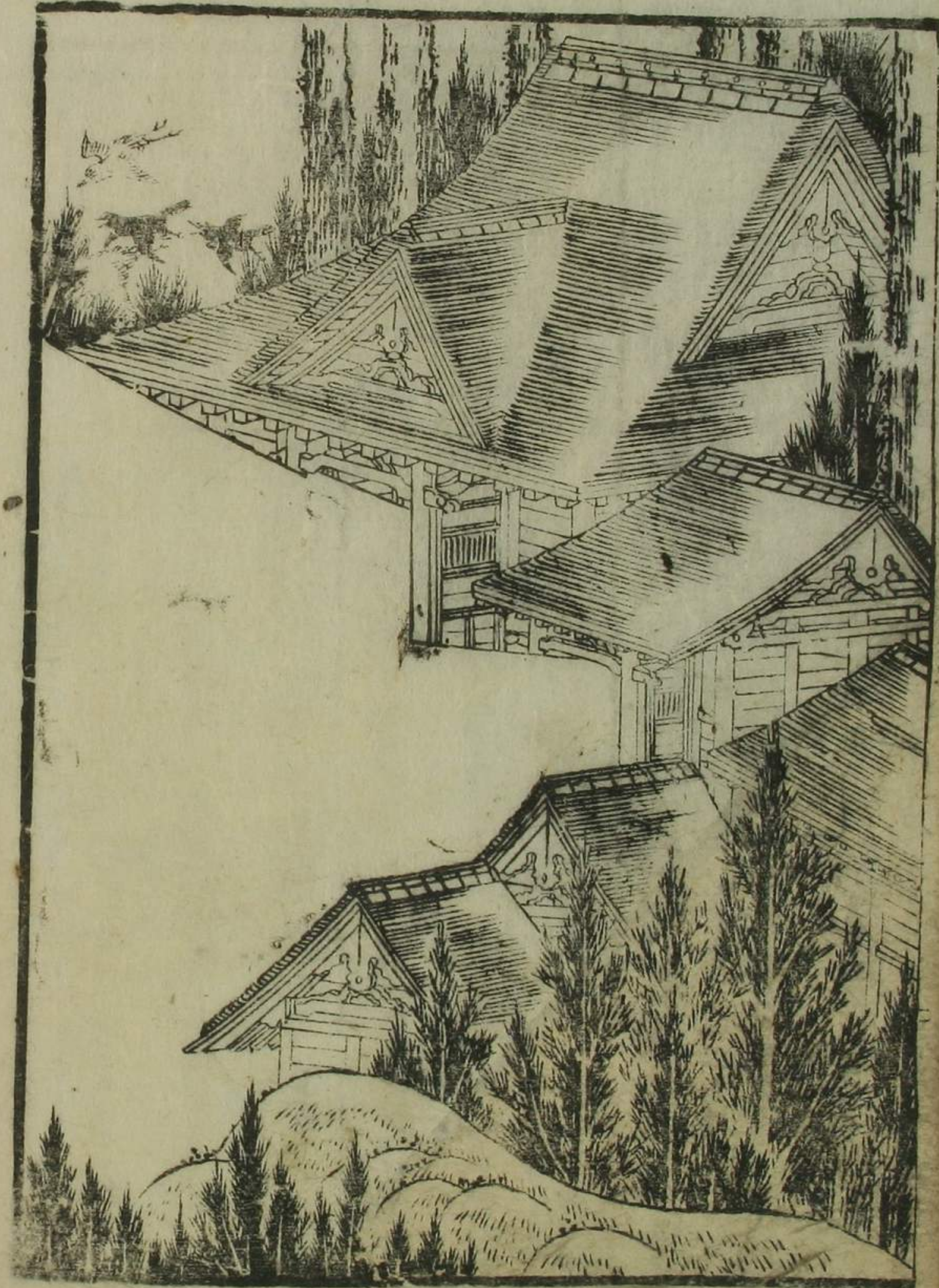
由利若卷之一



蹴鞠の御遊よと寄也。又日向拍子龜菊とつる女奴籠  
あゝあひ。院中の橋奢無様うらさるよりて形。内くよ  
侍長大納言藤原忠信中納言藤原有雅。藤原宗行あ  
ど。田くよ義時追討の計策も。武士よの二浦筑義友  
秀安。佐々木廣綱。大に親廣ホひそく軍勢。成催。不意  
よ京都の守護職伊賀判友光季。成攻む。光季。成負け  
終よ自害と。光季の政所。の執り。光宗が兄う。と。小条義時  
の妻と。兄芽あれば。も。是。成。伐。軍。の。内。出。と。中納言  
光親。成。一。と。小条。征。伐。の。院。宣。成。五。或。七。道。へ。あ。ると。い。へ。た。

鎌倉の武威盛。上皇の御企。空安。ち。官軍。宇。始。  
年の。成。止。ひ。失。り。か。泰。時。時。房。の。兩。拍。六。波。羅。よ。居。成。し。め。  
此。度。の。賞。罰。成。行。是。兩。六。波。羅。の。初。う。泰。時。か。嫡。子。時。氏。  
を。奉。行。と。く。勿。疎。あ。く。も。後。鳥。羽。の。上。皇。成。ハ。隱。岐。の。國。へ。  
遷。し。と。あ。く。も。順。徳。院。成。ハ。依。度。國。へ。遷。さ。る。上。皇。の。御。子。六。  
條。官。成。但。馬。國。へ。流。し。冷。泉。宮。ハ。傍。家。成。ハ。流。し。土。御。院。  
と。ハ。土。佐。國。へ。遷。し。と。あ。く。も。と。され。ど。此。君。今。度。の。と。く。あ。り。  
然。る。べ。り。と。さ。り。肯。上。皇。成。諫。め。あ。ひ。一。由。義。時。へ。出。る。者。あ。り。  
な。れ。ば。と。く。路。次。の。程。社。よ。等。あ。く。と。せ。べ。れ。辰。辰。時。が。討。へ。し。





八重の汐路<sup>しほぢ</sup>に越<sup>こ</sup>へ花<sup>はな</sup>浴<sup>ゆ</sup>くぬ道<sup>みち</sup>すゞ。えもまれさる風<sup>かぜ</sup>意<sup>い</sup>こ  
 赤<sup>あか</sup>くそりまよ。或<sup>ある</sup>夜<sup>よ</sup>縁<sup>えん</sup>鼓<sup>こ</sup>の月<sup>つき</sup>のらまふれよまむく。遠<sup>とほ</sup>道<sup>みち</sup>に  
 道<sup>みち</sup>遙<sup>とほ</sup>ま<sup>ま</sup>あゆまよ木<sup>こ</sup>立<sup>た</sup>りのありたる。神<sup>かみ</sup>殿<sup>どの</sup>の有<sup>あ</sup>りたるよめつた  
 あつ。ぐくとまむく衣<sup>い</sup>冠<sup>かん</sup>正<sup>ただ</sup>一人<sup>ひとり</sup>の翁<sup>おきな</sup>まむく。我<sup>われ</sup>ハ爾<sup>なんぢ</sup>が  
 常<sup>つね</sup>に信<sup>しん</sup>ず。若<sup>も</sup>清<sup>きよ</sup>まの未<sup>ま</sup>社<sup>しゃ</sup>の社<sup>しゃ</sup>に。爾<sup>なんぢ</sup>が一大<sup>いちだい</sup>此<sup>こ</sup>文<sup>ぶん</sup>をよ  
 たり。宜<sup>よろ</sup>敷<sup>敷</sup>分<sup>ぶん</sup>列<sup>れつ</sup>すべしとの社<sup>しゃ</sup>神<sup>かみ</sup>勅<sup>とく</sup>ありとむく。一<sup>いち</sup>枚<sup>まい</sup>の積<sup>つみ</sup>成<sup>なり</sup>  
 のふ押<sup>おし</sup>い<sup>い</sup>はむく。是<sup>これ</sup>成<sup>なり</sup>詠<sup>よみ</sup>しよ遠<sup>とほ</sup>天<sup>あま</sup>臣<sup>とみ</sup>の三<sup>さん</sup>ツ文<sup>ぶん</sup>をよむれば。  
 熟<sup>じゆく</sup>く讀<sup>よみ</sup>く其<sup>その</sup>妙<sup>たふ</sup>を向<sup>むか</sup>んとすれば。正<sup>ただ</sup>よ是<sup>これ</sup>曉<sup>あけ</sup>のまありれば  
 不<sup>ふ</sup>審<sup>しん</sup>まよ暗<sup>くら</sup>やと。獨<sup>ひとり</sup>中<sup>ちゆう</sup>に詠<sup>よみ</sup>くが夜<sup>よ</sup>已<sup>や</sup>よめまむく。

老<sup>らう</sup>臣<sup>しん</sup>列<sup>れつ</sup>府<sup>ふ</sup>庄<sup>じやう</sup>司<sup>し</sup>え押<sup>おし</sup>とむく。近<sup>きん</sup>世<sup>せ</sup>の士<sup>し</sup>自<sup>こ</sup>削<sup>けつ</sup>の赤<sup>あか</sup>行<sup>ぎやう</sup>向<sup>むか</sup>人<sup>ひと</sup>よ  
 詠<sup>よみ</sup>りあゆま。庄<sup>じやう</sup>司<sup>し</sup>打<sup>うち</sup>笑<sup>わら</sup>まよ。是<sup>これ</sup>ハ長<sup>ちやう</sup>途<sup>と</sup>の山<sup>やま</sup>がよと詠<sup>よみ</sup>ちる  
 中<sup>ちゆう</sup>言<sup>ごん</sup>成<sup>なり</sup>まよあゆまのあるべし。このまは留<sup>とど</sup>めあふねのまよ  
 ハ竹<sup>たけ</sup>とヤスまよ。由<sup>よし</sup>利<sup>り</sup>稚<sup>ち</sup>も其<sup>その</sup>まよ。同<sup>どう</sup>トま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>。此<sup>こゝ</sup>日<sup>ひ</sup>  
 も天<sup>あま</sup>晴<sup>はれ</sup>風<sup>かぜ</sup>除<sup>はら</sup>まよ。遠<sup>とほ</sup>の鳥<sup>とり</sup>くまよ。海<sup>うみ</sup>れは。由<sup>よし</sup>利<sup>り</sup>稚<sup>ち</sup>眺<sup>なが</sup>ま  
 よ飽<sup>あ</sup>む。彼<sup>か</sup>のまらまよ。島<sup>しま</sup>の名<sup>な</sup>のまよ。所<sup>ところ</sup>せはまよ。  
 舟<sup>ふね</sup>子<sup>こ</sup>もまらまよ。冥<sup>みやう</sup>まよ。景<sup>けい</sup>景<sup>けい</sup>はまよ。見<sup>み</sup>まよ。渡<sup>わたり</sup>は  
 行<sup>ゆ</sup>通<sup>とほ</sup>ひまよ。あま<sup>あま</sup>と。天<sup>あま</sup>  
 列<sup>れつ</sup>府<sup>ふ</sup>中<sup>ちゆう</sup>の君<sup>きみ</sup>常<sup>つね</sup>く景<sup>けい</sup>色<sup>しき</sup>成<sup>なり</sup>このみまよ。彼<sup>か</sup>まよ。

由利稚巻之二

島く一船成よと一献酌のりんいりて其の真の持るるんと  
此の庄司が第一昂起繩も進出りや海士人の住居も  
島もく被さるる見らるる一島真の持りて旅中の  
労成も忘るべしとをこり成近は手馴の未行諫めてい  
君今朝の美夢よりやゆるれともいれと神の教とあれ  
其文字の義理もともあれ此の成の信とを第一とあれ  
もも通るる島へ至りももいれも用ゆと諫めて成別府  
司よりあらり推泰と未行旅中の法保難を御家の光  
居らる。附添よとすも。何条よめらるべれと事長い

いひて蓋もれど有つよ六夢成論なり。今朝の所もいれ  
らるる虚夢成以て御信と何とを。とつらるといとも未行  
能再三再にわらひ止むるよ。別府見牙いよ。怒汝黄口の  
兒何とて尤好よ御狂成妨らる。我々御供成どうい。汝れ残  
る此船を字り。此船をまらへと。別よ一艘の船を命  
に。酒菓もど取入見。いれとを。と大持成いれ。巡風  
も。沖方へと志らる。え送る。海色眩茫とて。はな  
差も乗。天漢を流るも期くやあらんと。と。雲井  
ま。海魚成種。一の小島。船をとらぬ岩根。生る松影



床机双居。由利雅成を列府見才。そのはき  
さしあつたものども。あはれ右よ居流し。用意の酒肴  
をとりりぐ。此島の風情は悪く。盃をさしびぬるは  
由利雅の敷皮の上よ面杖突く。在りしが稍眠る後よ  
い。あはれ不覚のな神あり。彼の王濟が馬癖は  
癖が財癖。古への質とくちかちか。ぐ一ツの癖はあはれはしむ  
う。由利雅世よあられ。英雄とくちかちか。あはれ熟睡  
あはれとくちかちか。驚成耳えよ。放とくちかちか。嘗て眼覚  
たふふ。くちかちか。あはれや。火蕭牆の中よ起るの教るはよ

う。此を列府庄司え押。其弟二席起繩をひいて  
舞。計りしや。あはれん。良久あ私語れば。二席子を  
打ち笑ひ成合。官よ尊見の閑運我くが。今よあはれ  
と俄に鎖成解。あはれんとくちかちか。合面くあはれ強たは  
何とくちかちか。浪の上よ水主撤取。今成修。由利雅  
成捨重帆を十分よ揚。押知りり。あはれ手馴の未行の留  
として。船成守り。主君の夢の吉凶あ。あはれんとくちかちか。籠つて  
はびり洋中をる。見とくちかちか。帰帆の狩もあはれ。已よ其の目  
も申のりよあはれれば。あはれりよ。あはれ強たは。あはれ脚連の

船は出さざると用意する折柄。船は連る櫓拍子高く。え漕する船中。素端も内船のや近くと此方へ着く。未行船は出く途へあれば。列府二席。美先よまきこさこの船は素端の。未行くるより。がのとも云つて。振打は切なる。おほりりと云さよ。抜合とく。後り合不。庄司大音あ。主人由利雅。輝りよ透。花はら。か。か。諫。成。や。ど。公。務。成。ら。ん。ど。あ。れ。ぬ。島。よ。と。ゆ。い。ひ。大。濤。よ。り。と。て。今。日。斗。ら。ど。も。非。業。よ。を。成。遂。ぬ。世。常。よ。側。よ。ま。く。詭。譎。の。罪。又。燈。の。よ。わ。く。と。と。ま。す。よ。魯。鈍。の。君。よ。殉。死。と。と。ま。す。よ。飛。鳥。の。

と。飛。ら。ん。と。く。打。ち。り。あ。や。ま。く。と。未。行。美。向。を。切。て。と。念。心。と。申。ひ。の。心。不。成。と。申。く。切。伏。も。二。席。其。首。と。と。を。力。の。と。ま。す。つ。ぬ。れ。と。く。と。さ。の。わ。が。我。と。兄。才。が。言。葉。よ。叛。く。者。の。未。行。成。ら。ん。と。も。い。ふ。と。罵。れ。ば。云。甲。斐。な。れ。者。た。と。く。く。色。成。失。ひ。列。府。の。や。か。み。従。々。歸。國。成。を。い。は。れ。ら。り。神。皇。よ。由。利。雅。よ。示。し。あ。み。遠。天。臣。よ。と。い。蓋。し。天。の。と。ま。の。二。人。の。列。府。兄。才。二。人。の。臣。と。遠。ざ。り。ら。る。の。隠。語。あ。る。べ。し。

○ 由利雅梅子方来由

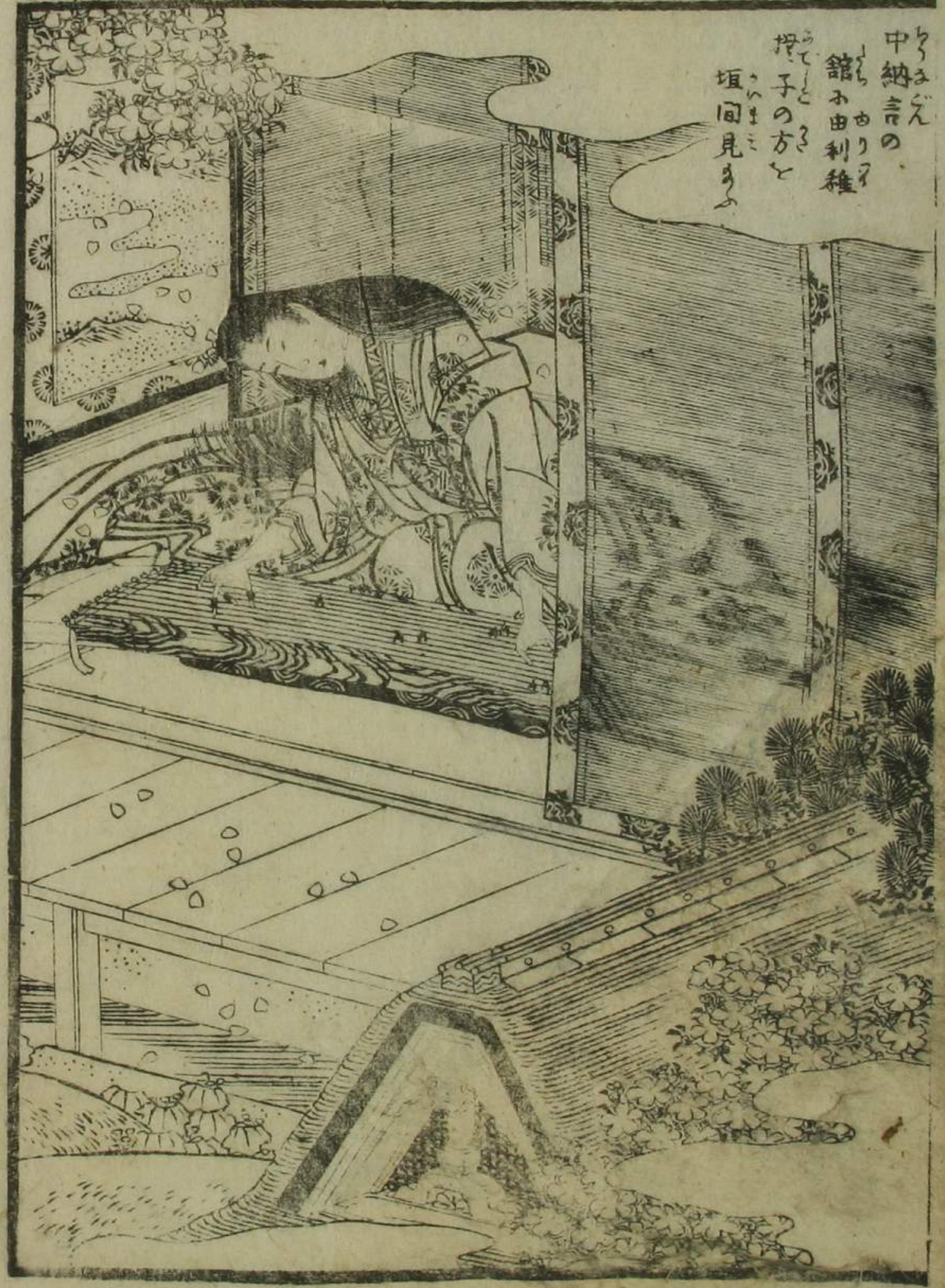
去程小別府庄司元押を。第二郎起總と共よ傳りけ計成り。兼久

乱軍の中ふ大ね由利稚討死しあを披露は陳中喪成唱え  
本國小帰正しかば國々残了留りたれ限りは唯茫然として  
ふ夢つゝ心地なり。況や由利稚の北北方の御歎ひゆれ入夜  
なり。此山の方とぞえは何某中將なりけれ人の姫君はほしく  
て深窓の内も育つとみひし。由利稚殿との七とせ許了前。禁  
理警言固れ役としく在京の折か。徒然のあやり彼中將の家  
再踏陶の抱びありて終日を歩りみひけれ。透垣のあやこふ最の  
妙なれ爪音のたえけを窺ひえまは二八はより那女けつふ  
はるなくらてやうおれ。春の夕へ成記とて格子とて遣はして。

そいほは筆の琴成撥なりしたれは。とほれ掛りて髪をのそられ  
より白ひ濃中うたれ容親露を合めれ花の曙風小使つ  
柳の夕部其魅ひまも及び難く。語つて言葉もりけ風  
情ふ由利稚行儀もあふぬ道おほひめれ公地せられて。かの館  
よらも帰アも後も其面影のみ忘れ中とて起もせと。露もせと。  
夜とつし日成暮し。とほれとれ海士とあはは忘れ州乃  
あめといふ浦のあうりも行くはしと。さひ沈み一氣色折らる落  
めどと秋の露も消る消るん玉簪の露より。終儀なりけら  
をがて嫌ふと人々を求めて。さうくの由かとて説われ消息の千

東のあつた斗なり。抑由利雅殿とやは先祖由利の三郎とて。  
 伊豫守頼義朝臣奥列征伐の折から。眞人武則の手お属し。  
 教度の軍功ありとより。代々羽列の領主ありし。由利雅弱冠  
 みして父の箕裘承嗣多し初て鎌倉殿ふ謁し。みひし時容貌  
 ことに麗しかりけれ。謙倉殿甚その美質賞し。多ひしん  
 暫くは總角の侍ありおとせよか。との台命いのみ難く。や  
 ほど過れすとて。てて取めて在せ。かばり。人々も由利雅  
 殿とのみ稍しきりり。か中のみやびと人柄なれば。はす系  
 姫君もいひ。れ登と下れ。箱船の至あり。んとそ。一とん

にかかりあ。授互ひ人目。中関守と。おして過多ひ。れ。既  
 お任とて。本國出羽へ。歸り。多らん。の。近くなれば。今。せん。と。を  
 なく。此中將の家。小羊。夕。仕。め。れ。雑掌の。今。は。子。世。次  
 び。づ。り。て。岩。藏。れ。は。ゆ。ら。ら。ふ。業。の。煙。を。と。と。と。庵。と。め。里。れ  
 子。佐。お。手。ぢ。の。業。を。教。え。居。る。れ。叟。探。し。し。は。は。く。の。引  
 出。物。と。せ。く。中。將。の。家。み。い。し。し。め。赤。繩。の。緑。に。む。か。か。る。人  
 と。形。の。終。子。遠。き。吾。妻。の。果。へ。途。へ。ひ。ひ。か。り。され。は。は。妻。婦。の  
 中。睦。は。し。く。未。の。は。山。す。清。か。け。は。髪。を。い。か。か。る。若。君。一。人  
 儲。け。の。御。名。と。緑。丸。殿。と。と。中。け。れ。掌。中。の。珠。と。の。み。御。寵。愛



中納言の  
館お由利種  
授子の方と  
垣間見まふ

のやど限りなかりし計らども此度由利稚殿乱軍のつらふ  
討と多し御亡骸入るれどもは我々とも共々黄泉此供と  
多しかど左あれ時誰ありて御取期の次第も人ふあら  
ざれば惜しむ余存生く本國も帰るべし別府兄弟が物語  
お探子の方と云如何なる夢のうけぞやと胸ゆかり肝潰て  
ななく涙も出やぐせめては哀と其人の討とたすひ一同し  
浪間の泡も消えはどけのみを後と先とてしとむせかえり  
あまひめりぞあといけりせめて哀れなり由利稚常お住るひ  
めれ一同は色紙押した障子ならぬ手ごころの筆の

誦も今とがさみとえれお探いとしれた草と生繋るは  
かてあふたあふれど代々の菩提院におちて佛事作若  
公成けしむあふ白駒もがくも止ゆることなく粉中陰も過  
行ぬりとうや別府兄弟は教代家の老臣といひ殊小由利稚殿  
とは舅家の従弟なれば此節よりして専ら家の政事と執  
虎狼のこゝろが挟み其家も奪りんとすれ象已あふれ  
われも古来恩顧の者とも互ひよるる區々なり然とも  
緑丸殿の傳父差羽大郎忠先といふの社幼君が守護は  
はと探子の方賢女の人あして去るも負烈もくひまら

けは別府見舞拔扈とて心やも根小政事に  
すれこはあまはじしとせむ。

由利稚野居鷹卷之一畢

あはれし  
あはれ  
あはれ

云が  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ

